

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学 I	数学 I	1	全クラス	3	必修	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	逢坂 清水 藤井 松浦 永岡
授業形態	習熟度別授業
教科書	数研出版 高等学校 数学 I
使用教材等	数研出版 クリアー数学 I + A 数研出版 チャート式 基礎からの数学 I + A

科目の目標・内容等

学習目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
学習における留意点	中学までの内容を十分に理解している必要がある。中学に比べて学習する内容は難易度が高い。中学までに学習したことはしっかり復習した上で授業に望んでほしい。
予習・復習	予習は出来るに越したことはないが、新たな数学的考え方に対する自らのイメージづくりに努めて欲しい。復習のほうが重要である。新たな数学的考え方を使って、計算が出来るように反復計算練習を十分に作る。
評価方法	定期考査・平常点(小テスト・課題 等)・課題テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	式の計算・因数分解及び一次不等式についての理解を深め、能率よく計算ができるようにする。 命題や条件などの用語の定義を学び、命題の逆、裏、対偶について理解する。対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を身につける。	式の計算や不等式などに関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 集合と論証に関心をもつとともにその有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。
2	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式 2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角比の応用	2次関数について理解し、関数を用いて具体的な事象の考察や2次方程式2次不等式を解くなど活用できるようにする。 三角比について理解し、基本的な性質について理解を深めていく。 図形の計量の基本的な性質について理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。	2次関数について理解し、関数を用いて具体的な事象の考察や2次方程式、2次不等式を解くなど活用しようとしている。 三角比に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 図形の計量の基本的な性質について理解し、具体的な事象の考察に活用しようとしている。
3	第5章 データの分析 データの分析	データからデータの散らばりや相関等の統計の基本的な考え方を理解し、活用できるようにする。	データの分析に関心をもつとともに、いろいろな手法を認識し、事象の考察に活用しようとしている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学A	数学A	1	全クラス	2	必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	荻原、駒場、清水、松浦
授業形態	クラス単位一斉授業
教科書	数研出版 高等学校 数学A
使用教材等	数研出版 クリアー数学 I + A 数研出版 チャート式 基礎からの数学 I + A

科目の目標・内容等

学習目標	場合の数と確率、整数の性質、図形の性質について理解を深め、 数学的な見方・考え方を身につける。
学習における 留意点	中学校で習った内容は、すでに身につけているとして、授業は進められる。 必要な知識は授業中に確認されるが、自らも復習しておいて欲しい。 新たな数学的考え方が出てきますので 自分のものとして消化できるよう反復練習をして欲しい。
予習・復習	予習は出来るに越したことはないが、新たな数学的考え方に対する自らのイメージづくりに 努めて欲しい。復習のほうが重要である。新たな数学的考え方を使って、計算が出来る ように反復計算練習を十分に作る。
評価方法	定期考査・平常点(小テスト・課題 等)・課題テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	準備 集合 1章 場合の数と確率 1 場合の数 2 確率	順列・組み合わせについて学んだ 後、不確定な現象を数学的に扱う 確率の考え方について学びます。 特に、現象を分析する際に、場面 に応じて適切な事象に分割して考 えることを学びます。	場合の数を計算するとき、効率的 に数え上げることを理解し、活用し ようとする意欲。また、確率の定義 を理解したうえで、論理的な考え方 を駆使し、実際に活用しようとする 意欲。
2	2章 図形の性質 1 平面図形 2 空間図形	三角形や円を含む図形に現れる 線分の比について学びます。ま た、作図の問題を考えます。いろ いろなゲームでは、私たちが使え る手は限られているのが普通です が、作図の問題は、決められた ルールで定規とコンパスだけを使 うゲームです。また、正多面体に ついて学びます。	三角形や円の基本的な性質を理 解し、その性質を様々な場面で活 用しようとする意欲。 空間図形の性質を理解し、その 性質を様々な場面で活用しようと する意欲。
3	3章 整数の性質 1 約数と倍数 2 ユークリッドの互除法 3 整数の性質の活用	自然数の素因数分解の性質を復 習し、2つの自然数の最大公約数 を求めるユークリッドの互除法、方 程式の整数解の求め方、記数法 などを学びます。	約数と倍数の性質、ユークリッドの 互除法を理解し、具体的な事象の 考察に活用しようとする意欲。 整数の性質を理解し、それらを活 用しようとする意欲。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学Ⅱ	数学Ⅱ	2	全クラス	4	必修	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	逢坂、荻原、清水、松浦、藤井、斉藤
授業形態	講義・演習，習熟度2クラス3展開
教科書	高等学校 数学Ⅱ（数研出版）
使用教材等	数研出版 改訂版 教科書傍用 クリアーⅡ+B 改訂版 クリアー数学Ⅱ 完成ノート シリーズ 啓林館 Focus Gold Ⅱ+B 4th Edition

科目の目標・内容等

学習目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
学習における留意点	数学Ⅰまでの内容を理解できていること。
予習・復習	教科書を用いて予習を行い、問題集で復習を行う。
評価方法	定期考査、提出物、小テスト等で総合的に判断する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式	・数の範囲を複素数まで拡張し、2次方程式や高次方程式が解けるようにする。 ・座標や式を用いて、直線や円などの平面図形の性質や関係を数学的に表現することができるようにする。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
2	第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
3	第6章 微分法と積分法	・微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学B(α)	数学B	2	A・B・C・D・E・F	2	必選	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	逢坂、荻原、駒場、松浦
授業形態	講義、演習等
教科書	高等学校 数学B(数研出版)
使用教材等	クリアー数学B完成ノート

科目の目標・内容等

学習目標	数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
学習における留意点	予習・復習・宿題を確実にやり、授業を通して学習内容の定着を図る。
予習・復習	予習:教科書、復習:ニュースコープ
評価方法	定期考査・平常点・提出物・課題テスト等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第2章 数列	数列の表し方、数列の概念について理解する。 等差数列、等比数列の一般項およびその和について理解する。自然数の和、自然数の平方の和、自然数の立方の和を求められるようにする。記号 Σ について、理解し、利用できるようにする。階差数列を用いて一般項を求める方法について理解する。	・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト
2	第2章 数列 第1章 ベクトル	工夫して、いろいろな数列の和を求めることができるようにする。二項間の漸化式について、その式の意味を理解し、一般項を求められるようにする。二項間の漸化式について、その式の意味を理解し、一般項を求められるようにする。 数学的帰納法について理解し、活用できるようにする。 ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。 また、それらを活用する力を養う。	・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト
3	第1章 ベクトル	ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。また、それらを活用する力を養う。 直線や円のベクトル方程式について理解する。とくにベクトル方程式については、媒介変数表示と関連させて理解する。また、それらを活用する力を養う。	・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学B(β)	数学B	2	A・B・C・D・E・F	3	必選	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	逢坂、荻原、斉藤、永岡
授業形態	講義、演習等
教科書	高等学校 数学B(数研出版)
使用教材等	クリアー数学B完成ノート

科目の目標・内容等

学習目標	数列, ベクトルについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。
学習における留意点	予習・復習・宿題を確実にし、授業を通して学習内容の定着を図る。
予習・復習	予習:教科書、復習:クリアー
評価方法	定期考査・平常点・提出物・課題テスト等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第3章 数列	数列の表し方、数列の概念について理解する。等差数列、等比数列の一般項およびその和について理解する。自然数の和、自然数の平方の和、自然数の立方の和を求められるようにする。記号 Σ について、理解し、利用できるようにする。階差数列を用いて一般項を求める方法について理解する。工夫して、いろいろな数列の和を求めることができるようにする。二項間の漸化式について、その式の意味を理解し、一般項を求められるようにする。数学的帰納法について理解し、活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業の参加姿勢や態度 提出物 小テスト
2	第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル	ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。直線や円のベクトル方程式について理解する。とくにベクトル方程式については、媒介変数表示と関連させて理解する。また、それらを活用する力を養う。平面上のベクトルを拡張し、空間のベクトルへ発展させる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業の参加姿勢や態度 提出物 小テスト
3	数学Ⅲ 第1章 複素数平面	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理、複素数と図形などの理解を深め、ベクトルとの関連性を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業の参加姿勢や態度 提出物 小テスト

※生徒の理解度や担当者の工夫により進捗が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学Ⅲ	数学Ⅲ	3	全クラス	6	自由選択	210 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	藤井実 駒場晃
授業形態	習熟度2展開
教科書	高等学校 数学Ⅲ 数研出版
使用教材等	数研出版 クリアー数学Ⅲ 完成ノート 式と曲線, 関数, 極限, 微分法とその応用, 積分法とその応用 啓林館 Focus Gold Ⅲ 数研出版 リンク数学演習Ⅲ

科目の目標・内容等

学習目標	平面上の曲線, 極限, 微分法および積分法についての理解を深める
学習における留意点	事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとさせる。
予習・復習	予習:教科書、Focus Gold、復習:ニュースコープ リンク数学演習Ⅲ
評価方法	考査、提出物等総合的に判断する

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第2章 式と曲線 第3章 関数 第4章 極限 第5章 微分 第6章 微分の応用 第7章 積分とその応用	円錐曲線、いろいろな関数、数列・関数の極限、三角関数と極限、関数の連続性、微分係数と導関数、いろいろな関数の導関数、接線と法線、不定積分、置換積分法、部分積分法、いろいろな関数の定積分など	平面上の曲線, 極限, 微分法および積分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている 数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているなど
2	第6章 微分の応用 第7章 積分とその応用 応用問題演習	接線と法線、平均値の定理、関数の値の変化、関数の最大と最小面積、体積、曲線の長さ、速度と道のり、入試問題演習と解説	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法における応用的な概念, 原理・法則などを実践的な力を知識を身に付ける 数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているなど
3	応用問題演習	入試問題演習と解説	実践的な力を知識を身に付ける

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学 I	数学 I A演習	3	全クラス	2	選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	逢坂 範彦、藤井 実
授業形態	講義・演習等
教科書	数学 I (数研出版)
使用教材等	リンク数学演習 I・A

科目の目標・内容等

学習目標	数学 I・Aについて、内容の復習を行うとともに技能の習熟を図り、大学入試に対応できる力を培う。
学習における留意点	数学 I・数学Aの基本的内容を理解している。
予習・復習	
評価方法	定期考査・問題演習・課題等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	数学 I 1 数と式 2 2次関数 3 図形と計量 4 データの分析	数学 I について、内容を復習し理解する。問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学 I について理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。
2	数学A 5 場合の数と確率 6 図形の性質 7 整数の性質	数学Aについて、内容を復習し理解する。問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学Aについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。
3			

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学Ⅱ	数学ⅡB演習	3	全クラス	2	選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	藤井
授業形態	講義・演習等
教科書	高等学校 数学Ⅱ（数研出版）
使用教材等	リンク数学演習ⅠAⅡB

科目の目標・内容等

学習目標	数学Ⅱ・数学Bについて、内容の復習を行うとともに技能の習熟を図る。
学習における留意点	数学Ⅱ・数学Bの内容を理解している。
予習・復習	毎時間
評価方法	定期考査・課題等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	数学Ⅱ 1 式と証明 2 複素数と方程式 3 図形と方程式 4 三角関数 5 指数関数と対数関数 6 微分法と積分法 数学B 1 ベクトル 2 数列	数学ⅡBについて、内容を復習し理解する。問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学ⅡBについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。
2	数学Ⅱ 1 式と証明 2 複素数と方程式 3 図形と方程式 4 三角関数 5 指数関数と対数関数 6 微分法と積分法 数学B 1 ベクトル 2 数列 センター試験ⅡB対策	数学ⅡBについて、内容を深く理解する。問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学ⅡBについて深く理解し、また応用問題演習を通して、技能の更なる習熟を図ろうとする意欲。
3	センター試験ⅡB対策	数学ⅡBについて、内容を深く理解する。問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学ⅡBについて深く理解し、また応用問題演習を通して、技能の更なる習熟を図ろうとする意欲。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。